

第2回 横浜市都筑公会堂指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	令和6年8月29日(木) 14時15分～17時00分
開催場所	都筑区役所5階 第一会議室
出席者	中津委員長(関東学院大学 准教授) 阿部委員(中小企業診断士) 志田委員(都筑区青少年指導員連絡協議会 会長) 吉野委員(都筑区連合町内会自治会 会長)
欠席者	山田委員(都筑クラブ 名誉会長)
開催形態	一部非公開(傍聴者4人)
議 題	1 会議の公開・非公開について 2 応募資格等の確認について 3 選定方法の確認について 4 面接審査 5 採点審査(指定候補者の選定)
決定事項	1 都筑公会堂運営管理グループを指定候補者に決定した。 2 委員会の選定結果について、都筑区長に報告することとした。
審議内容	1 会議の公開・非公開について <p>応募資格等の確認、選定方法の確認、及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。</p> <p>なお、傍聴者のうち、応募団体の関係者については、自身が所属する団体以外の団体の面接審査及び質疑応答部分を非公開とした。</p>
	2 応募資格等の確認について <p>事務局より、応募のあった2団体が当公募の欠格事項に該当しないことを報告した。</p>
	3 選定方法の確認について <p>事務局より、面接審査の流れ及び選定方法についての説明を行った。</p>
	4 応募団体の面接審査 <p>(1) 団体A(都筑公会堂運営管理グループ)</p> <p>ア プレゼンテーション</p> <p>イ 質疑応答</p> <p>ウ 財務状況の報告、個人採点(非公開)</p>
	【質疑応答詳細】 <p>(委員)「コミュニティの形成」という単語が節々に出てきたが、具体的にどのようにマネジメントの中で反映させようとしているか。</p>

(回答) 貸館施設において、コミュニティを広げていくことは難しいと考えるが、まずは、「来ていただく場」とするために、全館利用がされていない場合にはロビーを開放して、立ち寄っていただくような場所にしたり、これまで公会堂へ来たことのない方が、内容・価格ともに参加しやすいような自主事業を提供することなどでコミュニティを形成していきたい。

(委員) 都筑区と港北区とでのマネジメントする上での違いや、活動する団体の特徴、人口構成、どんな団体を招聘してネットワークに繋げるかなど、都筑区だからこそうしたい、というものはあるか。

(回答) 港北区は高齢化が進んでいる地域であり、利用者もシニア世代が多い。一方都筑区は、若い世代が芸術活動に対して活発に取り組んでおり、施設の稼働率も非常に高い。抽選に落選してしまった方に対しては、夜間等の空き枠をご案内している。

また、和室といった利用率が比較的低い居室においては、子育て世代のマッサージやヨガなど、和室のイメージを払拭するような自主事業を実施することで、新しい利用を促進するほか、抽選に落ちてしまった人の受け皿となればと考えている。

(委員) 適正な予算管理という面で、自社修繕は効率的であると考えている。修繕には費用がかかるので、状況を見たらうえ修繕計画を立てていけるといいと思う。

(回答) 最初に当施設の指定管理を引き受けた際には、トイレの故障が多く見受けられる状況だったため、自社の給排水の技術者が対応した経緯がある。

そのほか、外注業者へ依頼するほどではないが気になる点は多くあったので、サービス向上やお客様の利便性を考え、施設が快適に使用できるように、細かいところも注視している。

(委員) 自主事業はどのような基準でどのような講師を呼んでいるのか。

(回答) 直近の例だと、普段館内にお花を飾っていただいている団体からお声を頂き、団体の活動周知のお手伝いもできたらという思いで、お花の講座を実施した。

また、構成団体が音楽の団体のため、演奏家を構成団体から派遣することもある。

(委員) 演奏家というのは、自社の従業員なのか、それとも契約しているアーティストなのか。

(回答) 自社の従業員と契約しているアーティストのどちらもいる。

(委員) 区内や市内の方を講師に迎えた自主事業はどの程度あるか。

(回答) ほとんどが区内である。

(委員) 構成団体は杉並にあるようだが、従業員は市内、区内にいるのか。

(回答) 市内、区内で活動している従業員もいる。当施設や市内他施設などで演奏して回ることもある。

(委員) 今後、区内で活動している団体の掘り起こしは、どの程度考えているか。

(回答) とてもいいアイデアと思ったので、今後検討していきたい。

(委員) 利用者アンケートの中で、要望や課題などに対してはどう対応しているか。

(回答) アンケートで頂く要望の大半は設備に関するものである。例えば、区総合庁舎は全体空調により管理しているが、部屋ごとに個別空調を導入していただきたい、といった今すぐに対応することが難しい内容もある。

そのほか、備品の買い替え要望等もあるので、優先順位をつけたうえで随時対応している。

(委員) サービス面など、設備以外で課題として捉えているものはあるか。

(回答) コロナをきっかけに、抽選方法を来館によるものだけでなく、電話でも受け付けられるよう仕組みを変えた経緯があるが、これは利用者の声に応えたものである。

(委員) ウェブを用いた予約についても提案にあるが、仮に指定管理を受託できることになった場合、何年度から実施できる見込みか。

(回答) 早々に実施できるよう、今年度から準備を進める。

(委員) 公会堂の会議室で実施されたある説明会に参加した際に、反対派の人が非常に多く集まってしまうようなことがあった。安全に貸館利用できるよう、スタッフが利用者へアドバイスできるといいと思う。

(回答) 今指定管理期間中においては、そこまでの事象は生じていないが、都筑警察署協力のもと防犯研修を実施しているほか、自社で緊急時マニュアルを用意しており、職員の手が届く位置に常に配備している。利用者の安全を確保できるような研修をさらに徹底していきたい。

(2) 団体B (つづきホール運営協働隊)

ア プレゼンテーション

イ 質疑応答

ウ 財務状況の報告、個人採点 (非公開)

【質疑応答詳細】

(委員) 代表団体、構成団体ともに会社の事業規模が小さく、特に構成団体は、財務諸表から分かる範囲だが、当座比率が危険水域に達している。今後従業員を採用したうえ、研修の実施や賃金の支払いなどがあるかと思うが、資金繰りはどのように考えるか。

また、構成団体に万が一のことがあった場合に、代表団体としてはどのように対応されるか。

(回答) 令和7年度は天井改修工事に伴い休館となるが、その間舞台の業務は発生しないため、構成団体に影響はない。休館期間中に、様々な講習や研修を実施していきたい。

舞台人員として1.5名又は2名分を構成団体に担っていただくが、新たに人員を雇用するのではなく、現用の構成団体スタッフに担当していただく。

(委員) 構成団体の財務諸表を見ると、雇用者に支払われる給与の計上がないが、常用の従業員はいるのか。

(回答) 常用の従業員はおらず、役員が現場に出ている。

(委員) 今後研修等があるかと思うが、指定管理料の入金があるまでの間、手持ちの資金が乏しい中で、雇用するパート職員等に対しては、どのように資金繰りをして賃金を支払う予定か。

(回答) NPO 法人としては、事業規模に応じた資金繰りとなっている。公会堂については、公会堂の指定管理料で賄っていく。

(委員) 自主事業に対する実績は素晴らしい。一方で、公会堂にはその他の区民の方の一般利用もあり、自主事業とのバランスを取っていただく必要がある。

これまで施設管理の実績は薄いように見えるので、区民のみなさまがそれぞれ利用できるよう、職員を適切に配置し、研修を徹底していただきたい。

(回答) 現在の公会堂の利用実績を見ると高い稼働率となっており、この状態では自主事業を実施するコマがあまりないかと思う。

一方で、今後ボッシュ ホールの開館があり、少なからず公会堂の利用率が下がると考えられる。その結果生じた空き枠を活用して、他の利用者に迷惑をかけないような形で自主事業を実施していきたい。

また自主事業と言っても、これまで自らの団体の枠を超えて、都筑区内の幅広い人たちの裏方を支えてきたので、区民の声を聞いて一緒に作っていくのは当然と考えている。

NPO としては立ち上がったばかりだが、長年にわたってボランティアで行ってきたこのような活動を、これから次世代に繋いでいくという覚悟で立ち上げた団体である。ボッシュ ホールとも今後連携していく話をしている。

研修や講習は休館期間中に実施していく。

(委員) 都筑を盛り上げる活動をやられていてありがたいという気持ちである。

舞台での発表や音響関係は得意分野と思うので、収入を確保できるような仕組みがあれば、自主事業はより実施しやすいと思う。

(回答) 団体としても様々な助成金を活用したり、協賛金を地元から集めることは得意な部分である。

(委員) 音楽関係が得意なのか。

(回答) 音楽だけでなく、ミュージカルや舞台、ダンスなども関わっている。

(委員) 今回得意とする分野ではない、施設の管理業務を行うことになってまで、立候補しようと思ったのはなぜか。現在は、現指定管理者が施設管理をしている中で事業を実施していると思うが、それでは実現できないことや問題点として感じていることは何か。

(回答) 現在、年 4000 万円規模で運用されているが、前指定管理者が毎年 1000 万円の赤字を出していたように、現在の予算規模では施設運営にあたり十分ではなく、もう少しお金をかけるべきと考えている。

(委員) クラウドファンディングや助成金の活用をベースに自主事業を実施することだが、今の管理団体に施設管理を任せながら、自分たちのやりたいことを足していくような企画の提案はできないものなのか。

(回答) 公会堂においては難しいと考える。

当団体は、都筑区中の幅広い団体とつながっているが、「文化的コモンズ」の考えのもと文化を中心に据えて、さらにコミュニティを繋げていこうという決意で立ち上げた団体である。

(委員) 今は音楽や演劇など、現場で活動されている方が集まっているかと思うが、今後は事務職などを増やししながら、NPO の組織として育っていくことを想定しているのか。

(回答) そうである。

5 採点審査 (非公開)

面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計した。

応募団体の評点は次のとおりであり、最低制限基準点の 396 点を超えていることを確認した。

順位	団体名	評点
1	団体 A (都筑公会堂運営管理グループ)	516 点
2	団体 B (つづきホール運営協働隊)	455 点

【審査講評】

(1) 団体 A (都筑公会堂運営管理グループ)

- ・効率的な施設運営により、収支が改善されている実績がある
- ・経験・実績があり、建物の保守を含む、施設の管理運営のノウハウがある
- ・安定的な運営能力があると感じる
- ・一方で、地元のコミュニティ形成のための積極的な働きかけが見えず、取組も不明確であった
- ・自主事業実施の際に、地元団体や地元アーティストを登用することによって、地域のコミュニティ形成に繋がっていくのではないかと感じた

(2) 団体 B (つづきホール運営協働隊)

- ・地元根付いた創造的な活動実績があり、自主事業の企画力がある
- ・コミュニティ形成の力やアイデアがある
- ・多くの区民に愛されるバックグラウンドを持っている
- ・施設を利用してきた立場から、裏方の状況が分かっていると感じた

	<ul style="list-style-type: none"> ・一方で、施設の管理運営の面で実績のある団体がなく、ノウハウがないように感じた ・財務状況に不安があり、施設サービスを提供するための人材、体制が確保されていないように感じた <p>【総評】</p> <p>選定委員会で議論し、厳正に審査をした結果、指定候補者を団体A（都筑公会堂運営管理グループ）に、次点候補者を団体B（つづきホール運営協働隊）に決定した。</p> <p>指定候補者には、安定的な施設管理とともに、地域のコミュニティ形成や、次点候補者のように地域で魅力的なイベントを発信している団体との協働などを期待している。</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・タイムスケジュール ・評価・採点方法について ・横浜市都筑公会堂指定管理者公募に際しての「加減点項目」の評価について